

令和5年度 第2回足柄広域新モビリティサービス推進協議会 議事録

日 時 令和5年12月15日(金) 10:00～

場 所 松田町役場 1階 1AB会議室

出席者：杉本会長、梶田副会長、松木委員（代理：池田氏）、小川委員、平田委員、最上委員（代理：中川氏）、福島委員（代理：山崎氏）、内田委員、尾登委員、北村委員、梶田委員、小柳委員（代理：辻本氏）

欠席者：柳澤委員、佐野委員、武尾委員

事務局：政策推進課

鍵和田龍太、鎌田拓哉、鍵和田幸義

市川和男（まちづくりコーディネーター）

一般社団法人 ASHIGARA ON DEMAND 蛭海 友貴

オブザーバー：地域公共交通会議会長 古舘信生、大井町企画財政課長 湯川博之、

株式会社丹沢交通 田中 博志（代理：小嶋氏）

株式会社 SDK 総合研究所 横溝 雅央、林 八重

【会議次第】

1 開会

2 会長挨拶

3 議事

(1) 松田町 AI オンデマンド交通実証実験の実施(運行計画)について

(2) 松田町 AI オンデマンド交通の利用実績について

(3) 利用実績を踏まえた今後の取り組みについて

(4) その他

4 閉会

【会議概要】

1 開会

- ・事務局より開会のあいさつ

2 会長挨拶

- ・会長による挨拶

3 議事

(1) 松田町 AI オンデマンド交通実証実験について

- ・資料1-1、資料1-2を基に説明

- ・以下、質疑応答

○委員

- ・既存交通事業への影響について、運行開始から一ヶ月ほどしか経っておらず、暫定的な数字にはなるが、売り上げの部分に影響が出ている。10月実績と11月実績を見ると、10月

までの累計で回復傾向にあったものが11月実績を見ると売り上げや利用者数が落ちていることから相影響が出ていると考えられるため、このままの運行を続けていくと既存路線が維持できなくなってくる。詳細な数値は示せないが、影響が出ていることを認識していただきたい。

●事務局

- ・情報提供感謝する。AODとも分析を深めていけたらと考えている。今後のるーと通信(広報誌)においてバスからAIオンデマンドバスへ切り替えたかどうかのアンケートを取り、その結果も共有できたらと考えている。

○委員

- ・富士急湘南バスの厳しい状況であることは理解した。前回の会議で随時、実績を見つつ事業者と連携していく、との発言があったため、事業者とは密に連携を取っていただきたい。今後の予定で開成町へ区域を広げていく予定とのことだったが、運行事業者の人材不足が問題となっている中、人材確保等の話はしているのか

●事務局

- ・運行区域の拡大により車両台数を増やすかどうかは、利用数を見ながら検討を進めていくため、まだ検討段階につき、人材確保についても同様となっている。

(2) 松田町A I オンデマンド交通の利用実績について

- ・資料2-1、資料2-2を基に説明

(3) 利用実績を踏まえた今後の取り組みについて

- ・資料3-1を基に説明
- ・以下、質疑応答

○委員

- ・資料2-2によるMPの移設とわかりやすいMPの改善について対策は

●事務局

- ・MPを60ほど増やす検討と、落ち葉や雪による視認性の低下が考えられるため、運転手と利用者へMP設置位置の周知を図る。また、現在設置されているスーパーあおばのMPについては裏手に設置しており、場所が分かりにくいいため、移設を考えている。

○委員

- ・資料2-2の2p新たな会員タイプを創設し、高めの価格提供を可能という記載があるが、もし価格改正をするのであれば、運賃協議会に諮って価格設定を行う必要であり、この事業は3事業者が運行しているので最低3回運賃協議会を行うこととなるため早めの対応をお願いしたい。また、エリア拡大については次回以降の同協議会で協議していくという

ことでよいか。

●事務局

- ・具体的スケジュールはまだないが、開成町の担当とやり取りは開始している。予算の関係もあるので6年度に入って本格的な協議は行っていく、また、台数を増やす場合の納車期間があり、今回の実績から発注から納車まで半年ほどかかることを考えた場合6年度の下半期には運行開始ができるかどうかというところ。

○委員

- ・エリア拡大については次回以降の同協議会で協議していくということよいか。

●事務局

- ・そのとおり

○委員

- ・大井町にもまたがり運行しており、デマンドバスの事業としては広域だが、広域となると複数の運行事業者が関わってくるため、既存の交通に対する影響があるため、路線や本数、利用状況等、詳しい資料を基に検討を進めていただきたい。松田町地域公共交通計画を策定しているところだが、バス・タクシー・AI オンデマンドバスといった既存の交通に対しそれぞれの役割分担をさせていくのか、計画の中で明確にされると思うが、対象者(利用者)が同一であれば両立はできず、持続可能とは言えないことから役割分担をどう考えているのか情報共有していただきたい。

●事務局

- ・町内の公共交通については地域公共交通会議で議論しているところ。地域全体の公共交通の役割分担については情報共有した上でAI オンデマンドバスの立ち位置についても共有し、次回の会議で示させていただきたい。

○委員

- ・自治会での出席のため利用者の代表として話す、利用者としては良いものだと考えている。また、既存の交通事業者との関係も良好にし、持続していただきたい。前回全国で20番目の例との話があったが、そういった前例の中で、成功例や失敗例を挙げていただき、成功させるよう、成功例を運輸局であったり、町であったりから共有していただきたい。

●事務局

- ・サブスクの導入といった先駆的なことを行っているため、悪戦苦闘はあるが継続していきたいと考えている。好事例を取り込み継続したい。

○委員

- ・他の市町で好事例のようなものがあつたら情報共有したいと思っている。

○委員

- ・資料 3-1 より今後の取り組みについて、キャンペーンなど行い、周知に力を入れていただきたい。また、町のイベントについての運行についてどう考えているか。

●事務局

- ・イベント期間中の運行については、実行委員会等で対応方針を決めるが、現在の対応としてイルミネーション実施期間中は、会場に設置してある MP については使用不可としている。桜まつりやロウバイまつりについては PR も兼ねてどのように使用すべきか協議していく。

○委員

- ・利用者拡大の話の中で、既存交通の立場から利益の保護を考えた際、AI オンデマンドバス利用者の拡大を図った場合、影響を少なくする手段としてバス停に併設している MP を外すなどの対応が考えられる。両立は悩ましい問題であるため協議検討が必要。

●事務局

- ・指摘を踏まえて、事業者との定期的な打ち合わせの中で協議していく。

○委員

- ・利用者ごとの MP の移動履歴が分かるのであれば、路線バスと競合しているのかどうか確認しやすいので情報共有できないか。

●事務局

- ・マスターデータとして利用者の動きを把握しているが、現在資料がないため、今後共有する。

○委員

- ・次回の会議に共有していただきたい。

(2) その他

- ・なし

7 閉会

- ・副会長による閉会のあいさつ

